

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームふるさと 憩いユニット	評価実施年月日	平成20年9月5日
評価実施構成員氏名	玉澤満喜子 安宅麻生 八木清美 渡辺八重子 田中麗子 沖野るみ子 高橋初穂 小竹有子 (8名)		
記録者氏名	玉澤 満喜子	記録年月日	平成20年9月8日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>この町内に居住している者として、町内会の行事に参加したり応援したりと住民と共に楽しむこと</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の業務に追われる中特に理念を意識してはいないが、入居者との関わりの中では常に見守りの中できることはやっていただくなど安心と安全に心掛けている</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>年3回(4ヶ月に1度)のユニット便りで、家族に生活の様子・町内会との関わり(お祭り・盆踊り)を知らせている</p>	○	<p>まだグループホームふるさとが特別のものとして近寄り難い物と思われている様だが、少しずつではあるが自分達の活動の発表の場等として利用して下さる様になってきた(オカリナ・大正琴など)</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホーム周辺や木もれびの道の散歩などでは、入居者と共に声を掛けたり掛けられたりの関係はある</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>社長・専務は町内会の役員を引き受けそれぞれの行事に参加している また町内会の働きかけで、ホーム前の余分な木を間伐し、間伐された木を利用して作った花壇をホーム前のこもれびの道に置いて頂きました</p>	○	<p>入居者の高齢化や重度化などで、なかなか外へ向けて発進できない 流しソーメンや認知症サポーター講座など行いたいと思っているが…</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームヘルパーの実習の場や傾聴ボランティアの研修の場として後継者育成に協力している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>理解できているようで、他者に説明出来る程には理解できていない</p>	○	<p>スタッフ全員が改善の内容を個々に理解してだけでなく、定期的なカンファレンスによって共通の意識を持ち、理解と改善策の展開を図っていく必要があると思われる</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>平成19年度に第1回を開催して以来だったが、10月に2回目を予定している</p>	○	<p>地域に開かれたサービスとして、町内の方の意見を聞いたり要望を取り入れ年中行事を考え、サービスの向上につなげていきたい</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当者とは、提出物を出すときや更新手続き諸会議などで助言やアドバイスをいただいている</p>	○	<p>市の担当者と交流を多くし密な情報交換ができる様努める</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>制度は知っているが、現時点で該当者なし</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>何気ない言動の中に虐待と取られるものはないか、日々の業務の中でスタッフ同士気を配っている。見直さなくてはならない行動や言動は、さり気なく注意しあっている</p>	○	<p>月1回の会議や研修等によって、高齢者虐待についての知識や現状の把握など幅広く理解できる様、施設全体での取り組みを行って生きたい</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>重要事項の説明と、家族や本人の要望や疑問に答え納得できるまで説明させて頂いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月1回の会議において入居者個々の意見・不満・苦情を管理者とともにスタッフ全員で話し合い運営に反映させている		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会や電話などで定期的な現状報告を行い、ユニット便りでは職員の異動についても紹介し、また預り金については毎月収支の報告と領収書の送付をしている		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット入口に苦情箱を設置し広く意見や苦情を伝えて頂ける様にしている 同じあやまち(洗濯物の色落ち・ファスナーの破損など)を繰り返さない為連絡帳に記載して全員に周知し、更に会議において確認しあっている		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	これでよいのか個々のスタッフに日常的に問いかけ話し合っている。又会議の中でスタッフの意見を聞いている	○	言いたいことがあっても、後のことを考えると言い出せない空気もあり問題
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	事前にスタッフに説明し理解を求めた上で勤務調整を行ったり、突発的な時や緊急時はスタッフの理解のもと延長勤務などで対応できている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最近では離職者が目立つ中、入居者へのダメージを防ぐ配慮が最大限必要であり努力している	○	短期間での離職者を出さないよう、職員間の輪や情勢にあわせた雇用条件の見直しが必要かもしれない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>実践者研修やグループホームの研修等に参加し、スタッフ個々のレベルアップにつながっていると思う</p>	<p>○</p> <p>研修の意義を理解し自己参加が増えることが望ましい。又内部研修の充実も図って生きたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>苫小牧GH連絡会・有志による勉強会に参加。合同忘年会を立ち上げ、他のホームのスタッフとの交流を行っている</p>	<p>○</p> <p>介護者としての質の向上を図るためにも、同業者との交流は必要を思う</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>特にないが、スタッフ個々が打ち明けてくる悩みや相談はきちんと話を聴く時間を取っている</p>	<p>○</p> <p>スタッフ個々の悩みや不安・意見などを定期的な面談などで聞き取り、コミュニケーションを深める中で働き易い職場環境を作っていく事が大事では</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフは日々忍耐と努力を重ね、自分自身と葛藤の中で働いていると思うが、各自がそれぞれ意欲を持って働き続けたいと思える具体的な支援策は確立されていない</p>	<p>○</p> <p>各々のスタッフがホームの一員として自覚と期待感を持って仕事が行えるよう支援し、スタッフの能力や経験を生かせるよう役割を持たせたり、使命感を持って業務を行えるようにすべき</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期は混乱と不安の中で過ごされているため、困っていることは何か心配事は何かを聞き、とにかく安全で安心できる場所であることを肌で感じて頂ける様深く関わって受け止めている</p>	<p>○</p> <p>入居者の意志を尊重し、気持ちよく生活して頂ける様努力していきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にじっくり説明し不安を取り除いてから入居して頂いている。入居後の様子は面会時や電話などで連絡しあっている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今何がしたいのか、どうなれば良いのか、適時調べ必要な所へ連絡を取り家族や本人に伝えている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	その人にとってどれが良いのか、どうすれば良いのか、全体像を見ながら自然に溶け込めるよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の大先輩であるということを念頭に、その人それぞれの主体性や自己決定を大事にし出来ることはしていただく中で、教えてもらったり助言を受けたりと支え合って生活している		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの生活が長期化する中で、本人と家族の距離が遠くならないよう状況報告をしながら家族とのコミュニケーションを深め、ともに支えあう関係をつくっている	○	施設にお任せ～となってしまう様、今後の高齢化社会においては家族との密接な協力関係が必要不可欠であることを周知していただけるよう、働きかけが必要
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の思いを受け止めながら、日常生活での本人の言動を理解し本人にとって一番ベストの方法を選び、家族と同一の視点で支援している。相互が安心できることが第一。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	その人の育ち方・生きざまなどアセスメントし、その人の人生の大切な部分を共有し、心の中に存在する大切な人や場所が途切れてしまわない様支援している 知人の面会時はゆっくり話ができる様に配慮している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者間の関係状況を把握し、その都度不快な思いをさせない様スタッフが間に入り、会話がスムーズに進む様に努め孤立している人には寄り添うなどして支援している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院が必要な方には時折見舞ったり、死亡退所の家族の方には暑中(寒中)見舞いなどで交流を欠かさないように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人がどの様に生きていきたいのか、その人の思いや希望を受け止め、家族の協力を得ながら意向に添える様努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の相談における本人の経歴や環境を把握し、又家族や本人の会話の中から新たに発見する一面を随時記録に残し、スタッフ全員が周知できるように努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の暮らしの中で24時間その人の全体的な状況を把握し、その時々で対応している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ間においてモニタリングやカンファレンスを重ね、本人にとって何が一番安心で幸せなのか家族の要望も念頭において適切なプランの作成に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身的状態が変わったときや現状にそぐわない部分はモニタリングや家族に報告しプランの削除や変更を行っている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別に記録をとりスタッフ間で情報を共有しケアプランの見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同一の建物内に他業者のデイサービスが併設されており、状況に応じ利用が可能である(以前利用していた方もいた)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの慰問や実習生の受け入れをしている。月1回の手芸教室には生き生きとして参加している。町内会子ども神輿をホーム前で迎え、盆踊りにも参加している		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	デイサービス利用の希望者には、事業所・家族とも話し合い可能になるように支援している		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に協働はないが、研修等の案内はいただいている。しかしなかなか参加できないのが現状		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	内科・皮膚科・歯科医との連携により、定期受診や随時往診でその時々合った医療を受けられる様支援している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市内に認知症専門医がいないため、精神科・脳外科・内科と入居前からのかかりつけ医や協力病院の医師の治療や診断を受けている		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師は常勤ではないが入居者の状態は報告で把握しており、気軽に相談にも応じてくれる		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した時は必ず家族と共にムンテラを受けている。1ヶ月～1.5ヶ月で退院できる様、状態の把握や相談をしている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	変化が生じてきた入居者の家族には折りに触れ体調や受診結果を報告し、スタッフ間で共有しながら医師の指示に従って対応している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医の指導の下に、出来ることを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>重度化してからの住み替えが多く(入院)、家族と充分意見交換を行い家族が一番安心して納得できる所を探している</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取り扱いや入居者個々の尊厳を大切にするなど、管理者の指導の下スタッフ全員が徹底している</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の出来る事出来ない事を見極め、出来る事に焦点を当てて支援している。また会議などで、どこまで援助することで自分で出来るか話し合いプランに上げて実行している</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>毎日をその人らしく過ごせる様、日常生活を観察し個々のペースを大切にして支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>清潔感を基本にしている。洋服は自ら選び着用し、月1回の出張理美容を利用し本人の望むおしゃれができる様支援している</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日々のメニューを一緒に買い物に言って決めたり、天候や体調に合わせて変えたり、それぞれの得意分野をいかして調理や洗い物下膳等参加していただいている</p>	○	<p>台所に入る入居者の数も減り一緒にキッチンに立つという傾向は少なくなっているが、わずかな時間でも出来るだけ一緒に行っていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	その人が好きなものやそのときに飲みたいものを提供できる様努めている		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を作成し間隔やパターン・便の種類状態などを個々の入居者ごとに把握し定期的な排泄が行えるよう支援し、体調に変化をきたさないようスタッフ全員が統一した意識と理解をもって行っている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	それぞれの意思を尊重しながらも、入浴が苦手な方にも気持ちよく入っていただける様工夫し、曜日や時間帯に関係なく入浴できる様支援している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	照明の度合いや枕の高さ・足が冷えていないか・眠れないのは何故なのかなど、その時の状況・状態に応じて安眠できる様配慮している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの経歴を出来る限り把握した上で、その人が何を好んでいるか・何が楽しみなのか話し合って支援している		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に添ってショッピングに行ったり、ユニットの食品買出しと一緒に好き好きなものを選んでもらったり、望むものを持ってレジに並んで支払をしていただくなど支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気に応じてホーム周辺の散歩・買い物・ドライブなど、入居者の気分に応じた支援を行っている	○	ホーム前の木の下で昼食を取るなどこれからも続けていきたい
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りやお寺参りの希望はご家族にお願いし、洋服や花を買いに行きたいなどの訴えがある時は一緒に行けるようにしている	○	入居者も我々と同様、街を歩きたい・バーゲンに行きたいなどの思いが多々あると思うが、スタッフ不足のため満足いく支援に欠けていると思うので改善しなければと思っている
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	こちらから手紙を書いたり電話をすることは無いが、電話がかかって来たときには本人にも出てもらい話ができる様支援している		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できる様になっている。居室で気兼ねなく会話し団欒できる様支援している		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者主体のケアを第一に考え、安全かつ安心して生活して戴ける様スタッフ全員が禁止行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	介護保険法その他身体拘束についての知識を理解し、そして弊害についてスタッフが内部研修等で常に新しい知識を学べるような取り組みを行っていきたい
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ケアの基本としてスタッフは常に入居者の側に寄り添うものであり、鍵をかけてはいけないという指導の下、玄関はいつでも誰でも気軽に出入り出来るように自由な暮らしを支援している	○	入居者がユニット外に出て行かれた時は、さり気なく同行している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーを守りながら、いつでもどこでもそれぞれの入居者を見守り、安全に安心して暮らせるように支援している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その人に合った居室作りをしている。その人には何が危険なのか把握して、安全に暮らせるようにしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常時、個々の状態やその時の行動など見守り、特に転倒に関してはスタッフ全員が気を配り危険度を理解して安全に生活していただける様心掛けている	○	会議や内部研修等で常に情報と基本的なマニュアルを学べるように取組んでいきたい
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	折りに触れ会議や連絡ノートに記載するなどして、スタッフ全員が対応できる様にしている マニュアルはあるが夜勤帯は一人のため不安がある	○	会議や内部研修等で様々なケア・リスクに対する適切な対応とその防止策について、経営者・管理者・スタッフが理解と実践を計っていく体制を充実させていきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導の下、避難経路の確認や災害時の訓練を行っている	○	近隣の方々の協力を得、火災訓練を一緒に行うなど取組んでいきたい
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ホームで生活するうえで、その人にどの様なリスクがあるか、それぞれどう軽減するか、家族に説明したりカンファレンスなどで話し合っている		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い、常に体調を把握している。異常が発見された時はスタッフ間で話し合い連絡をとるなどして必要に応じ医療機関の受診も行っている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	それぞれがどんな病を持ちどんな薬を服用しているか、今の体調はどうか確認している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘がどのような影響を及ぼすのか理解し個々の排便表を見ながらその人にあつた方法で便秘を避ける対策をしている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けが必要な方・介助が必要な方とそれぞれに応じた口腔内の清潔保持に努めている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取表を作成し、個々の摂取量を把握し過不足をスタッフ全員が共有し状況に応じて調整している		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ全員が理解している。基本的には手洗い・うがいの実施、ごみは溜めない、殺菌剤の使用など予防策を徹底している 汚物処理一式をバケツに入れて常備している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗い・うがい・漂白・食品用手袋の使用、そして新鮮な食材を使い食べる直前に盛り付けるなど、安心して食せるよう配慮している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	気軽に出入り出来る様、玄関前には余計なものを置かないようにしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	模様替えなどは混乱を避けるため目立たないように行い、直射日光にさらされない様カーテンなどで軟らかい光が感じてもらえる様工夫している。又、テレビや台所の不快な音にも配慮している	○	車椅子使用者が増え、トイレが狭いのが難
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりがその時の思いのままに自由に過ごせる場所がある 食卓テーブルの配置にも気配りしている	○	長年培ったそれぞれの個性が強く、“和”を大切にみんな一緒に～とはなかなか出来ないことが悩み
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、自宅で長年使用した馴染みの家具や使い慣れたものや箸食器など持参していただき、思い出を大切に生活環境を大切にしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	建物の構造上、換気が悪いので極力窓を開けるようにしているがすぐに閉めてしまう為、空気清浄機や消臭剤などを使用している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な生活が送れる様に工夫されているが、個々によって出来ないこともある為、その時に応じ見守りや声掛け・一緒に行くなどしている	○	動線に沿っての居室内の手摺りが少ない。安心して立位や歩行が出来ると手摺りがほしい 水道が混合栓になっていて慣れない為か、故障が多い
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	それぞれの生活パターンにあわせて、自分で出来るようにさり気ない支援をしている		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先やホーム前の木の下で、昼食を取ったりおやつタイムを設けたりしながら楽しめるようにしている		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
よく大きな家族の様といわれますが、これからもこの雰囲気をこわすことなく入居者個々の生活を大切にしていきたい